

令和 6 年度

事業報告

社会福祉法人 天心会

救護施設 フローラ

目次

I 利用者の状況	1
A表 … 入退所状況	2
B表 … 入所前の状況	3
C表 … 年齢構成状況	
D表 … 平均年齢の推移状況	
E表 … 障害別状況	
F表 … 在所期間別状況	4
G表 … 平均在所期間の推移状況	
H表 … 出身地別状況	
J表 … 学歴別状況	5
K表 … 精神保健福祉手帳所持状況	
L表 … 身体障害者手帳所持状況	
M表 … 療育手帳所持状況	6
N表 … 各種年金受給状況	
O表 … 加算金受給状況	
P表 … A・D・L 状況	7
Q表 … 医療機関利用状況	8
R表 … 医療機関入院状況	9
S表 … 服薬管理の状況	
T表 … 食事の状況	
U表 … 実施機関別状況	10
グラフ 1・年齢構成	11
2・平均年齢の推移	
3・障害構成	12
4・在所期間	
5・平均在所期間の推移	13
II 援助の状況	14
1. 実施行事の主なもの	15
2. 定例行事・日課	18
3. 日課表	19
4. 諸活動（クラブ等）のまとめ	20
5. 各種委員会のまとめ	22
6. 苦情解決事業	28
7. 居宅生活訓練事業	
8. 保護施設通所事業	29
9. DV 被害者一時保護委託事業	

Ⅲ事業実施のまとめ	30
1. 援助実施のまとめ	31
2. 施設の改善	34
3. 災害対策	
4. 施設の運営管理	35
5. 生活困窮者自立支援	36
6. 地域公益活動への取り組み	

# I 利用者の状況

A表 入退所状況

性別	繰越人員		新入所	人員	退所状況						月末人員		在籍延べ人員	
					転寮	入院	居宅	死亡	その他	計				
男	38	86	0	0			1			1	37	82	1135	2542
女	48		0			1	2			3	45		1407	
男	37	82	1	2						0	38	82	1148	2521
女	45		1		1	1				2	44		1373	
男	38	82	0	1						0	38	81	1140	2473
女	44		1			2				2	43		1333	
男	38	81	1	1			1			1	38	79	1159	2460
女	43		0		1	1				2	41		1301	
男	38	79	1	4			1			1	38	81	1185	2513
女	41		3						1	1	43		1328	
男	38	81	1	2	1					1	38	80	1117	2390
女	43		1		1				1	2	42		1273	
男	38	80	1	6						0	39	85	1180	2553
女	42		5			1				1	46		1373	
男	39	85	1	1						0	40	83	1173	2513
女	46		0		1	2				3	43		1340	
男	40	83	0	0					1	1	39	81	1222	2533
女	43		0		1					1	42		1311	
男	39	81	3	3	1					1	41	82	1233	2526
女	42		0		1					1	41		1293	
男	41	82	0	3						0	41	85	1148	2325
女	41		3							0	44		1177	
男	41	85	0	2					1	1	40	86	1254	2638
女	44		2							0	46		1384	
男	38	86	9	25	2	0	3	0	2	7	40	86	14094	29987
女	48		16		4	4	8	0	2	18	46		15893	

↑ ↑ 期首人員 (延実人員 111名) 期末人員 ↑ ↑

B表 入所前の状況

入所前 性別	精神科病院 に入院	一般病院 に入院	居 宅 (同居)	居 宅 (単身)	その他	計
男	26	5	4	6	6	47
女	39	1	6	9	9	64
合 計	65	6	10	15	15	111
比 率	58.6%	5.4%	9.0%	13.5%	13.5%	100.0%

C表 年齢構成状況

性別/年齢	18～39	40～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～89	90～	計
男	1	5	3	7	9	11	3	5	3	0	47
女	8	8	6	8	10	4	9	8	2	1	64
合 計	9	13	9	15	19	15	12	13	5	1	111
比率	8.1%	11.7%	8.1%	13.5%	17.1%	13.5%	10.8%	11.7%	4.5%	0.9%	100.0%
平均年齢	男性 : 63.77歳			女性 : 59.59歳			全体 : 61歳4ヶ月				

最高年齢 : 94歳&lt;女&gt;

最低年齢 : 26歳&lt;女&gt;

D表 平均年齢の推移状況

※令和元年度は、延実人員117人の平均。※令和2年度は、延実人員114人の平均。

※令和3年度は、延実人員112人の平均。※令和4年度は、延実人員117人の平均。

※令和5年度は、延実人員115人の平均。※令和6年度は、延実人員111人の平均。

性別\年度	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
男	63.05	62.29	62.73	61.49	60.68	63.77
女	61.74	60.97	60.69	58.62	59.11	59.59
全 体	62.33	61.55	61.57	59.92	59.81	61.59

E表 障害別状況

性別/障害	精神障 害のみ	身体障 害のみ	知的障 害のみ	重複① 精神と 身体	重複② 精神と 知的	重複③ 身体と 知的	重複④ 精神と 身体と 知的	障害 なし	計
男	28	2	3	5	0	0	0	9	47人
女	40	1	1	1	8	1	1	11	64人
合 計	68	3	4	6	8	1	1	20	111人
比率	61.3%	2.7%	3.6%	5.4%	7.2%	0.9%	0.9%	18.0%	100%

精神障がい計

74.8%

身体障がい計

9.9%

知的障がい計

12.6%

重複障がい計

14.4%

F表 在所期間別状況

性別／期間	～	1年	5年	10年	15年	20年	25年	30年	合計
	1年	以上	以上	以上	以上	以上	以上	以上	
男	9	15	10	4	4	2	0	3	47人
女	19	14	13	5	4	2	3	4	64人
合計	28	29	23	9	8	4	3	7	111人
比率	25.2%	26.1%	20.7%	8.1%	7.2%	3.6%	2.7%	6.3%	100%
平均期間	男性：8年4ヶ月			女性：8年10ヶ月			平均：8年8ヶ月		

G表 平均在所期間の推移状況

性別\年度	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
男	8.15	8.92	8.95	7.50	7.40	8.31
女	9.13	8.58	8.73	8.50	7.70	8.86
全体	8.82	8.75	8.82	8.08	7.57	8.63

H表 出身地別状況

府県別	男	女	府県別	男	女	府県別	男	女
北海道	2	0	福井	0	0	山口	0	0
青森	0	0	山梨	0	0	徳島	0	1
岩手	0	0	長野	0	1	香川	0	0
宮城	0	0	岐阜	0	2	愛媛	0	2
秋田	0	0	静岡	0	1	高知	0	1
山形	0	0	愛知	1	2	福岡	2	0
福島	0	0	三重	0	0	佐賀	0	0
茨城	0	0	滋賀	1	1	長崎	1	2
栃木	0	0	京都	1	1	熊本	3	0
群馬	0	0	大阪	29	31	大分	0	1
埼玉	0	1	兵庫	2	7	宮崎	0	0
千葉	0	0	奈良	2	4	鹿児島	1	0
東京	0	1	和歌山	0	1	沖縄	0	0
神奈川	0	0	鳥取	1	0	その他	1	0
新潟	0	0	島根	0	1	不明	0	0
富山	0	0	岡山	0	2	計	47	64
石川	0	0	広島	0	1			

J表 学歴別状況

性別\学歴	大卒	高卒	中卒	旧小卒	小卒	不就学	その他	計
男	7	20	17	0	1	1	1	47
女	11	23	26	0	0	2	2	64
合計	18	43	43	0	1	3	3	111
比率	16.2%	38.7%	38.7%	0.0%	0.9%	2.7%	2.7%	100.0%

\* 大学・・・短大含む。 不就学…小学中退含む。 その他…不明含む。

K表 精神保健福祉手帳所持状況

性別\等級	1級	2級	3級	計	比率
男	9	18	3	30	26.3%
女	4	32	10	46	40.4%
合計	13	50	13	76	66.7%

L表 身体障害者手帳所持状況

等級\障害		肢 体		視 力		言 語		聴 力		内 部		合 計	
1級	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0		0		0		0		0			
2級	男	3	4	0	0	0	0	0	1	0	0	3	5
	女	1		0		0		1		0		2	
3級	男	1	1	1	1	0	0	0	0	1	1	3	3
	女	0		0		0		0		0		0	
4級	男	1	2	0	0	1	1	0	0	1	1	3	4
	女	1		0		0		0		0		1	
5級以下	男	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	女	1		0		0		0		0		1	
合計	男	5	8	1	1	1	1	0	1	2	2	9	13
	女	3		0		0		1		0		4	

M表 療育手帳所持状況

性別\等級	A	B 1	B 2	計	比率	備 考
男	1	1	1	3	2.7%	A ~ 重度知的障害 B 1 ~ 中度知的障害 B 2 ~ 軽度知的障害
女	5	3	4	12	10.7%	
合計	6	4	5	15	13.4%	

N表 各種年金受給状況

種類 \ 性別	男	女	計	比率
障害基礎年金	6	24	30	27.0%
国民年金（老齢）	3	3	6	5.4%
厚生年金（障害）	0	0	0	0.0%
厚生年金（老齢）	0	0	0	0.0%
国民年金・厚生年金（老齢基礎厚生）	9	10	19	17.1%
国民年金・厚生年金（障害基礎厚生）	3	3	6	5.4%
国民年金・厚生年金（障害基礎・老齢厚生）	2	2	4	3.6%
その他（重複受給）	1	1	2	1.8%
小 計	24	43	67	60.4%
年金非受給者	23	21	44	39.6%
合 計	47	64	111	100.0%

\* 企業年金等受給者17名あり

\* 年金生活者支援給付金受給者 64名あり

O表 加算金受給状況

種別 \ 性別	男	女	計	比率	
障害加算A	身障法（1～2級）	1	0	1	0.9%
	国民年金法（1級）	3	6	9	8.1%
	精神保健福祉法（1級）	6	1	7	6.3%
障害加算B	身障法（3級）	1	0	1	0.9%
	国民年金法（2級）	8	20	28	25.2%
	精神保健福祉法（2級）	11	18	29	26.1%
小 計	30	45	75	67.6%	
非受給者	17	19	36	32.4%	
合 計	47	64	111	100.0%	

P表 A・D・L状況

性別 項目	男			女			合計			比率(%)		
	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助
食 事	34	13	0	54	10	0	88	23	0	79.3%	20.7%	0.0%
	47			64			111			100%		
排 泄	38	9	0	47	16	1	85	25	1	76.6%	22.5%	0.9%
	47			64			111			100%		
入 浴	37	8	2	45	15	4	82	23	6	72.6%	20.7%	5.4%
	47			64			111			99%		
衣類着脱	39	8	0	57	7	0	96	15	0	84.0%	15.1%	0.9%
	47			64			111			100%		
歩 行	39	6	2	54	7	3	93	13	5	83.8%	11.7%	6.2%
	47			64			111			102%		
洗 濯	24	4	19	31	7	26	55	11	45	49.5%	9.9%	40.5%
	47			64			111			100%		
掃 除	32	6	9	37	12	15	69	18	24	60.7%	16.2%	21.6%
	47			64			111			99%		
リネンの 交換	34	7	6	45	12	7	79	19	13	71.2%	17.1%	11.7%
	47			64			111			100%		
私物整理	30	13	4	36	26	2	66	39	6	59.5%	35.1%	5.4%
	47			64			111			100%		
買 物	21	14	12	27	22	15	48	36	27	53.0%	21.3%	25.7%
	47			64			111			100%		

Q表 医療機関利用状況

		精神科	歯科	アルコール専	皮膚科	循環器内科	眼科	リハビリテーション	整形外科	内科	外科	消化器内科	泌尿器科	耳鼻科	婦人科	口腔外科	呼吸器内科	神経内科	心臓血管外科	腎臓内科	脳神経内科	脳神経外科	乳腺外科	産婦人科	計
4月	実人数	32	4	3	3	3	4	1	1	4		2		1	1	1	2	1	1		1				65
	日数	39	15	4	4	3	5	1	1	4		3		1	1	1	2	2	1		1				88
5月	実人数	33	6	3	3	3	3	1	1		1	1	2	2	2		2	1		1					66
	日数	49	15	3	4	3	3	4	1		3	2	4	3	4		2	2		1					104
6月	実人数	32	8	2	3	5	4	1	3	2	1		1	1		1	2					1	1		68
	日数	40	18	2	3	5	4	4	3	2	2		1	1		2	2					1	1		91
7月	実人数	23	9	2	3	4	3	1	2		1		1	1	1	2	2	1		1	1				58
	日数	33	28	2	5	4	3	4	4		2		1	1	2	2	2	1		1	1				96
8月	実人数	29	13	2	3	4	4	1	1	1	1	1				1	1					1		1	64
	日数	31	29	2	5	5	4	5	2	1	1	1				1	1					1		1	90
9月	実人数	20	7	2	3	5	2	1	3	1	1			1	1			1	1	1	1			1	52
	日数	25	14	2	3	6	3	2	4	1	1			2	1			1	1	1	1			1	69
10月	実人数	30	7	2	4	2	4	1		2	2	2		1		1			1						59
	日数	36	11	4	4	2	4	2		2	6	2		1		1			1						76
11月	実人数	32	7	2	3	1	2	1	2	4	1		1			1				2					59
	日数	38	16	3	4	1	2	4	3	7	1		2			1				2					84
12月	実人数	25	5	2	4	4	1	1	2	2	2		2					1			1				52
	日数	29	10	2	6	4	2	3	2	2	2		2					1			1				66
1月	実人数	27	8	3	5	5	5	1	1	2		1	1	1				1		1					62
	日数	30	21	6	7	5	6	3	1	3		1	1	1				1		1					87
2月	実人数	28	8	3	5	4	4	1	3	1	1	1	1		1	1	1	1							64
	日数	32	14	11	5	4	5	3	8	1	1	1	1		2	1	1	1							91
3月	実人数	25	5	3	6	7	2	1	2	2		1				1		1	2	1	1		1		61
	日数	30	13	17	7	7	2	4	2	2		1				1		1	4	1	1		2		96
計	実人数	336	87	29	45	48	38	12	21	21	11	9	9	8	6	9	10	8	5	7	6	2	1	2	730
	日数	412	204	58	57	51	43	39	31	25	19	11	12	10	10	10	10	10	7	7	6	2	2	2	1038

R 表 医療機関入院状況

項目 科別	入院 件数		経 過									
			再入所		転院		期限切		入院先 死 亡		継続入院	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
内 科	1	3	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0
外科/整形外科	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
精神科	6	13	2	7	0	0	0	4	0	0	4	2
その他	2	3	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	9	20	5	13	0	0	0	5	0	0	4	2
	29		18		0		5		0		6	

S 表 服薬管理の状況

性別 区分	施設管理		自己管理		合 計		
	男	女	男	女	男	女	計
食前薬	1	1	1	0	2	2	4
食後薬	35	46	6	13	41	59	100
眠前薬	24	36	6	10	30	46	76
注射薬	3	0	0	1	3	1	4
外用薬 (吸入・貼付薬)	0	1	0	1	0	2	2

T 表 食事の状況

区分/性別	男	女	計	比率	備 考
ふつう食大	40	32	72	64.9%	一般食2000kcal
ふつう食小	7	8	15	13.5%	一般食1600kcal
かろやか食	0	24	24	21.6%	副食は軟菜、低カロリー一食1400kcal
合 計	47	64	111	100.0%	

U表 実施機関別状況

(1)大阪府下

実施機関名	東大阪市西	東大阪市中	東大阪市東	枚方市	守口市	門真市	八尾市	羽曳野市	堺市中	交野市	和泉市	松原市	茨木市	吹田市	貝塚市	高槻市	箕面市	大阪狭山市	堺市堺	計	比率%
男	21	5	2	2	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	35	31.5%
女	22	3	1	4	0	1	0	0	0	0	1	0	3	1	0	6	0	0	0	42	37.8%
計	43	8	3	6	0	1	0	1	0	2	1	1	3	1	1	6	0	1	0	77	69.4%

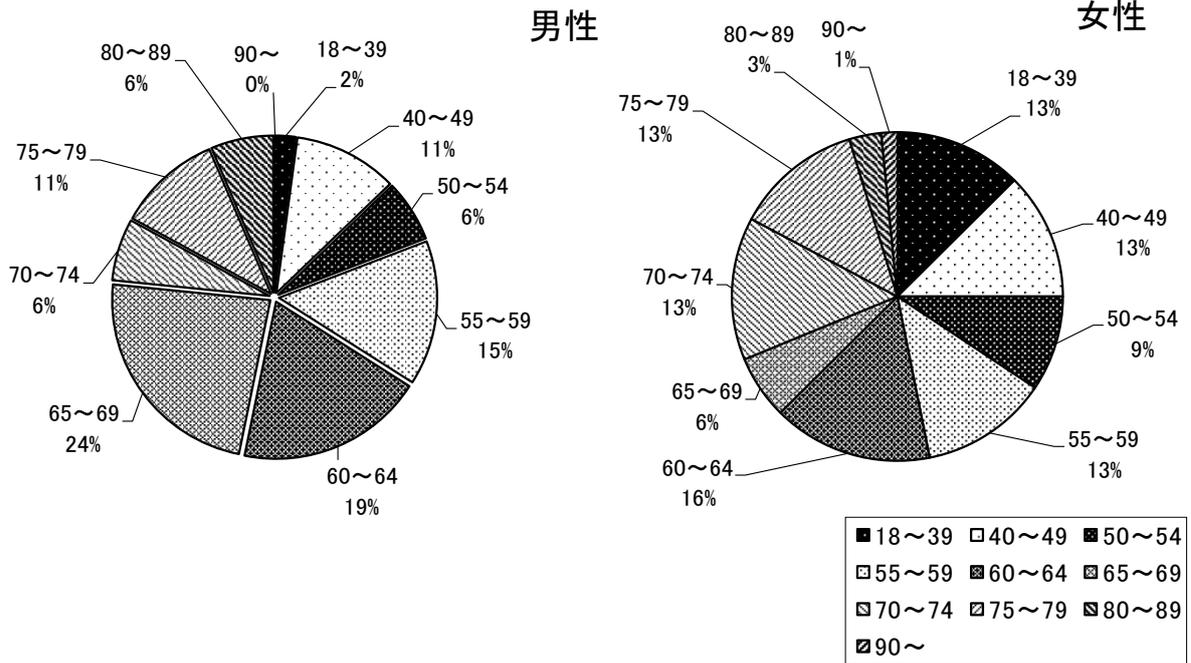
(2)大阪市内

実施機関名	急入院保護センター	中央区	阿倍野区	福島区	北区	城東区	東成区	西成区	鶴見区	旭区	平野区	淀川区	此花区	都島区	生野区	大正区	計	比率%
男	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	4.5%
女	11	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	1	16	14.4%
計	16	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	1	21	18.9%

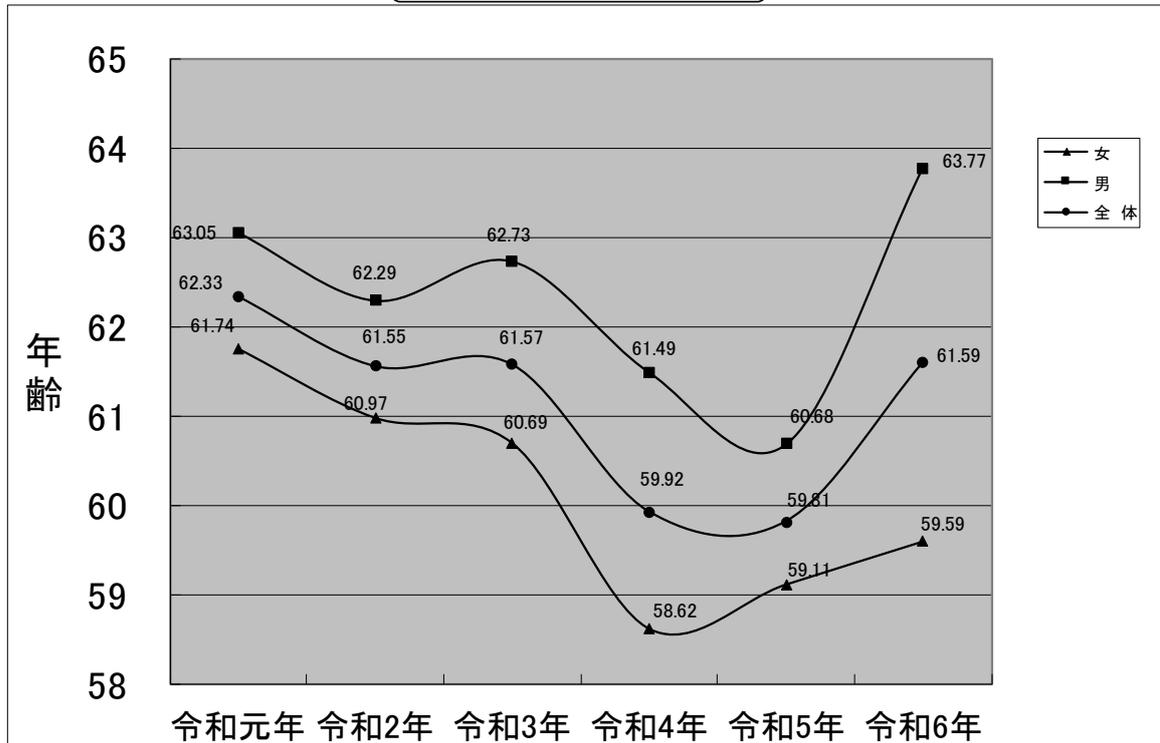
(3)その他

実施機関名	京都市右京区	奈良県生駒市	大和郡山市	尼崎市南部	尼崎市北部	草津市	芦屋市	その他	自己負担	計	比率%
男	0	1	1	1	1	1	0	2	0	7	6.3%
女	1	1	1	1	1	0	1	0	0	6	5.4%
計	1	2	2	2	1	1	1	2	0	13	11.7%

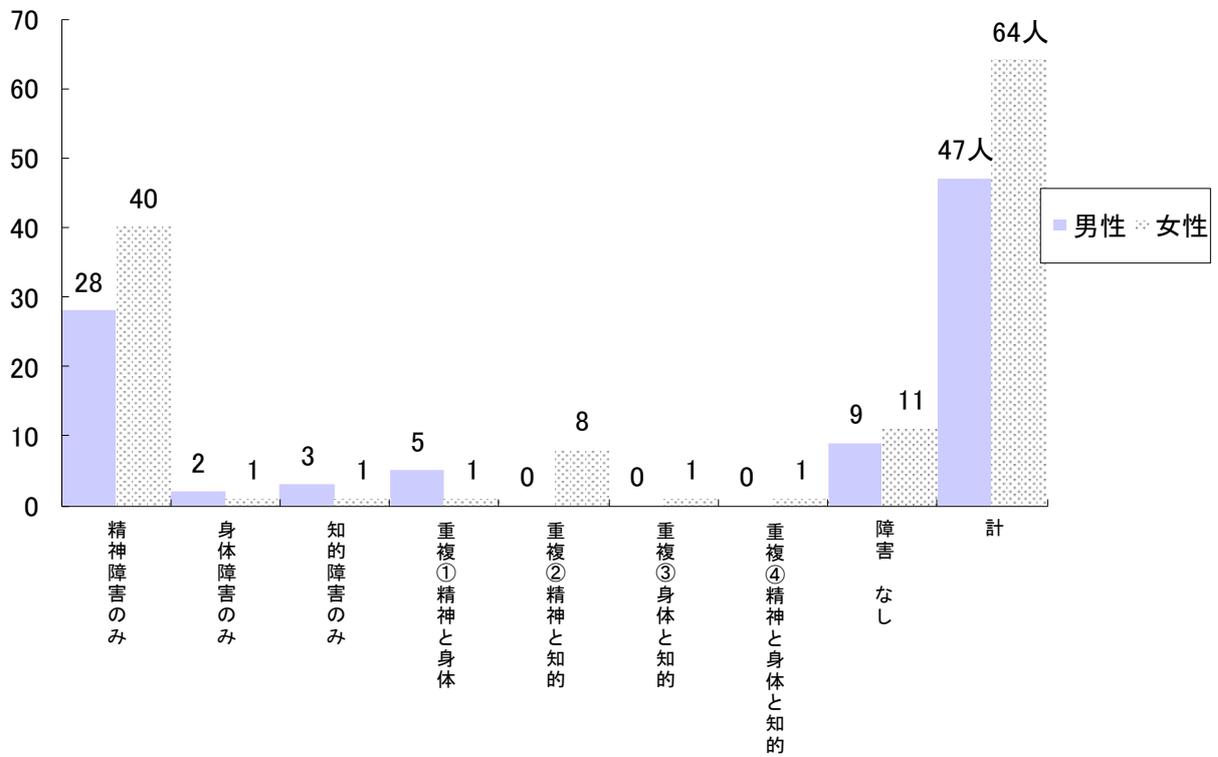
## 1. 年齢構成



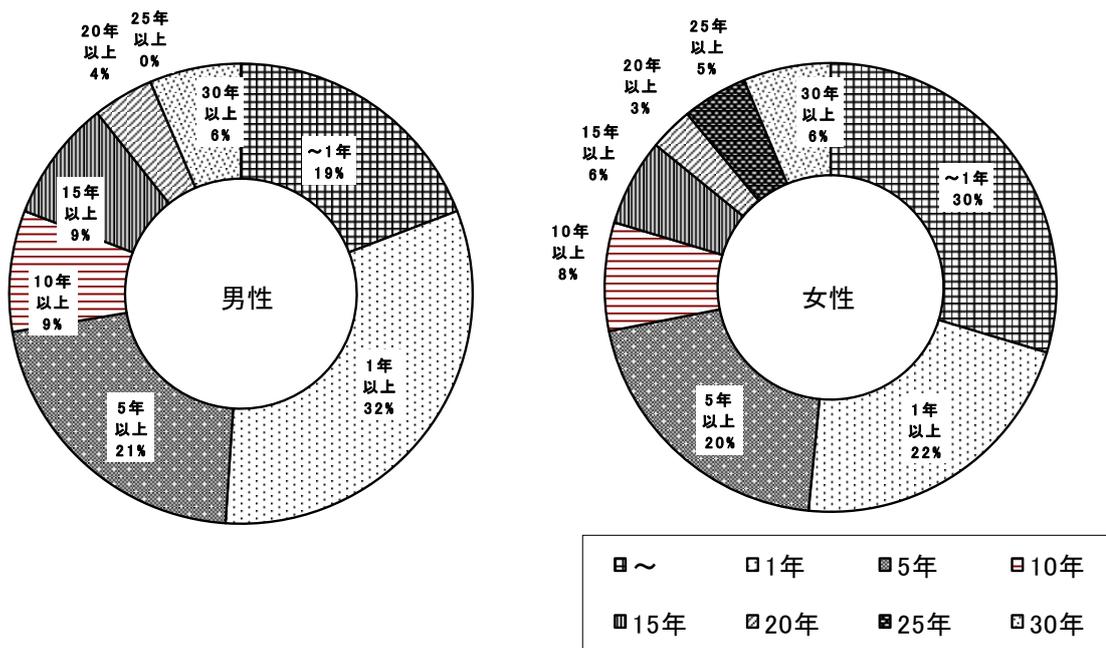
## 2. 平均年齢の推移



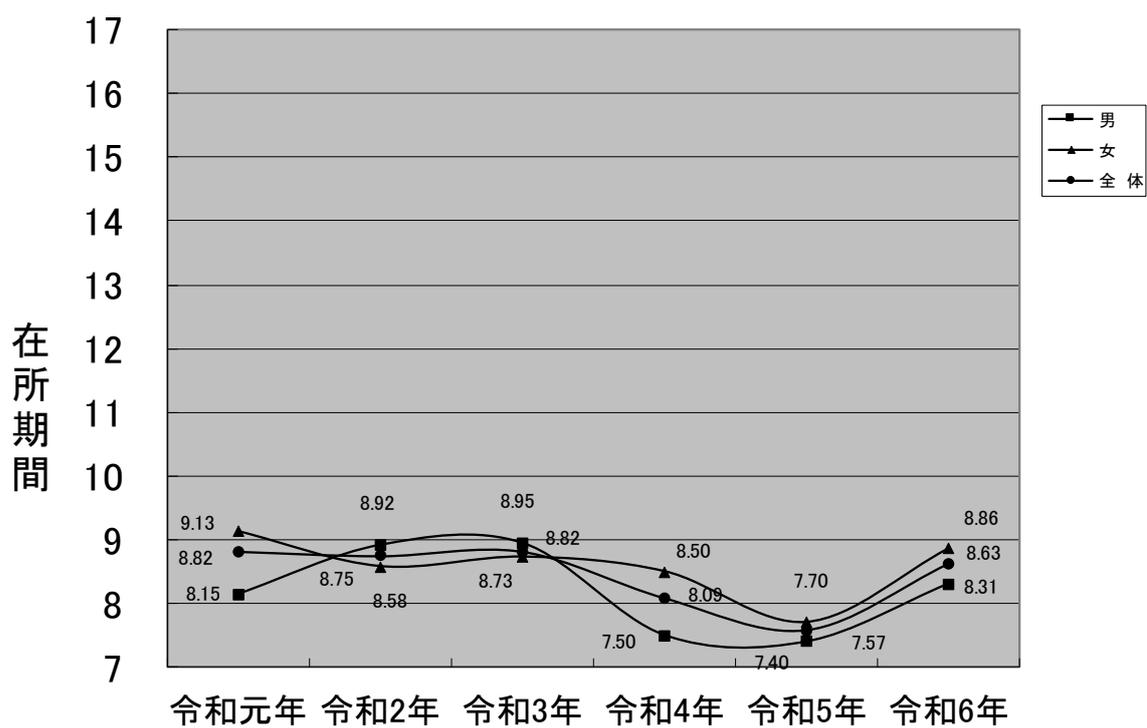
### 3. 障害構成



### 4. 在所期間



### 5. 平均在所期間の推移



## Ⅱ 援助の状況

1. 実施行事の主なもの

月	日	行 事 名	備 考
4		春季健康診断 (中旬から下旬にかけて)	レントゲン等を含む定期検診。
5	12	ふれあい祭り	第45回東大阪市民ふれあい祭り。途中雨であったが、パレード見学や模擬店での買い物を楽しんだ。施設内ではキャベツ焼を提供し楽しんで頂いた。
	12	いきいきサークル	東大阪市民ふれあい祭りのパレードを見に行き、模擬店も楽しんだ。
	18	お笑いなにわ祭	大阪国際交流センターにて吉本・松竹の漫才と吹奏楽を楽しむ。利用者5名、職員2名参加。
6	2-8	環境美化週間	利用者・職員が施設内美化活動で掃除を行う。
	9	いきいきサークル	音楽を取り入れた体操を行った。
	16	大阪キリスト教会(花の日)慰問	花の日に因み、コロナ禍以来5年ぶり慰問。歌や手品を披露して頂き、利用者代表に花束が贈られた。
7	2	七夕	笹に願い事等の飾り付けを行った。
	11	避難訓練(夜間想定)	避難訓練と消火訓練を実施する。
	11	夏季大掃除	利用者、職員で大掃除を行う。
	13	家族会	10家族19名参加。施設の取り組み説明。給食試食。職員数名と利用者家族の交流会。
	14	いきいきサークル	施設近辺のウォーキング。
8	2	創立記念日(8/1行事食)	昼食 ちらし寿司、天ぷら、炊き合わせ、小松菜ゆず和え、すまし汁等を利用者に提供する。
	19	災害時の情報伝達訓練	法人全体で安否確認サービスの「掲示板」機能を利用した通報訓練と職場不在者からの状況報告訓練を実施した。
	24	家族会	家族会 会長の呼びかけによる交流会。2家族3名。ドックセラピーも実施し、利用者、家族、職員交流を行った。
	25	訪問ネイル	ネイリスト3名来所。希望者にネイルを施術。

9	5	グループ旅行 1回目	日帰りレク 八尾グランドホテル。
	15	敬老会	敬老のお祝い会。敬老者の体調面を考慮し、各ユニットにて実施。
	15	いきいきサークル	長瀬川周辺をウォーキング。
	24	グループ旅行 2回目	施設内へのケータリング。がんこ寿司
	29	永和校区敬老会	教育センター（旧永和小学校）で地元住民による歌・ダンス・劇・楽器演奏等を鑑賞する。
10	8	グループ旅行 3回目	施設内へのケータリング。がんこ寿司
	11	口腔検診	今井歯科医院より訪問診療(39名)を受ける。
	18	口腔検診	今井歯科医院より訪問診療(36名)を受ける。
	19	秋まつり	法人全体で地域を交え模擬店、催しを実施。
	20	東大阪市福祉施設会合同運動会	東大阪市立岩田西小学校にて開催。職員2名が運動会の係を担当した。雨天後の予備日
	21	慰霊祭	物故者の霊を慰め祭る。
11		救命講習	東大阪市西消防局による普通救命講習会 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、中止した。
	11	いきいきサークル	施設周辺をウォーキング。
	14	避難訓練（日中想定）	避難訓練を実施する。
		秋季健康診断（10月下旬から11月中旬にかけて）	レントゲン等を含む定期検診。
	8 14	インフルエンザ予防接種（季節型・新型混合）	インフルエンザ感染予防の為、対象者、希望者にワクチン接種を行う。
	23 24	永和地区文化祭	教育センター（旧永和小学校）で地元住民による文化祭に利用者制作作品の展示参加。
	28	第22回大阪救護施設合同文化事業	シティプラザ大阪にて大阪府下救護施設が集まりパフォーマンスコンテストに参加する。
12	7	年末大掃除	利用者・職員で大掃除を行う。
	21	家族会	施設内新型コロナウイルス感染拡大の観点から中止した。
	21	年忘れ会	施設内新型コロナウイルス感染拡大中の観点から各ユニットでプレゼント抽選会、食事会等を実施し、カラオケは中止した。
	22	大阪キリスト教会慰問	讃美歌等歌って頂く予定であったが施設内新型コロナウイルス感染拡大中の観点から中止した。

1	1	年賀式	各ユニットごとに新年を祝う。
	1	初詣	施設内の特設神社を参拝する。
	5	いきいきサークル	施設外の近隣神社参拝する。
2	3	節分	鬼の登場の演出をし、各ユニットを巡回し節分を感じる豆まきをした。
	11	いきいきサークル	施設外の近辺をウォーキング。
3	1	ひな祭り	ひな人形と記念撮影。おやつ(どら焼き)提供
	13	防災訓練(夜間想定)	東大阪市西消防署立会いのもと避難訓練実施。訓練用消火器を用いて消火訓練の指導を受ける。
	15	法人墓参り	霊山寺(奈良)にある法人の供養塔に参る。
	20	いきいきサークル	施設外の近辺をウォーキング後、茶話会。

※上記の他、各コミュニティでの企画を、適時実施した。

(外出企画、買い物代行、外食、外注食、カラオケ、おやつ・料理企画等)

## 2. 定例行事・日課

	行 事 名	備 考
毎月	避 難 訓 練	年 2 回実施。(内 1 回は、消防署立会いによる消防訓練 (3 月))
	誕生祝いと懇談会 外食会	誕生者のお祝い、利用者と施設長の懇談会を行った。 誕生者の外食会は外食やデリバリーで実施した。
	散 髪	月 2 回、理容師に来所してもらい施設内で散髪を行う。
	ふれあいの日	毎月第 4 日曜日、近隣の清掃を行う。
	血圧・体重測定	隔月 1 回実施。
	ゆうゆうタイム (アクティビティ・プログラム)	土曜日。月当番が企画し、様々なプログラムを実施。
	ビデオ映写会	隔月 1 回、施設内で実施。
	いきいきサークル	毎月 1 回、施設内外で実施。
	夜間外出	毎月第 1 金曜日 17:00~19:00 まで実施した。
毎週	入 浴	1 人週 3 回。 月・金曜日は、午前一般入浴、午後より介助入浴、観察入浴。 水曜日は、午前介助入浴、午後より一般入浴、観察入浴。その他、必要に応じて各ユニットのユニットバスでも実施。 夏季は入浴日以外にもシャワー浴を実施。
	診 療	毎週火曜日、小阪病院の医師による診察。
	個別支援活動	毎週火曜日実施。
	シーツ交換	隔週木曜日。(夏季は毎週実施)
	パジャマ交換	毎週実施。(月・金曜日)
	相談窓口日	隔週日曜日(第 1・第 3)に実施。利用者からの相談や苦情を受け付け、適切に対応する体制をとる。
毎日	生 産 活 動	月・水・木・金・土曜日の午前に実施。 月・水曜日は、午後も実施。
	体 操	朝あるいは昼・夕にみんなの体操、ラジオ体操、リハビリ運動などを実施。各ユニットで対応する。
	ウォーキングタイム	月~土曜日、午後 4 時から 15 分間の歩行訓練。
	掃 除	施設内の清掃 担当区域を決めて実施。 職員とともにいき、各ユニットで対応。
	う が い	昼と夕の食前に実施。
	歯磨き援助	食後、適時実施。

### 3. 日課表

6:30	起床（特に時間は定めない。）		
7:00			朝食
8:00	朝食（2階の後、1階、3階対応）		月・水・木・土曜日　～菓子パン 金曜日（3回和食1回洋食）～ご飯 日曜日　～食パン
8:15			
8:45	ユニット別ケアワーク （体操、掃除、身だしなみ）		居宅生活訓練・通所事業の対象者は、朝のミーティング実施。
9:15	生産活動（作業）～ 月・水・木・金・土		個別支援に基づき、支援を実施。
9:30	個別支援活動～ 火		ガーデニングは毎月1回、土曜日または日曜日に実施。
		月・金曜日 一般入浴 観察者入浴 水曜日 介助者入浴 9:30～11:30	入浴は、必要に応じて各ユニットのユニットバスでも、適時実施。
11:00	作業終了 うがい		
11:15	昼食（2階の後、1階、3階対応）		昼食は、希望する地域利用者にも提供。
12:15			
13:15	ユニット別ケアワーク （各ユニットで対応） 個別支援活動～ 火		一般外出は、9:00～17:00
13:30	生産活動（作業）～ 月・水 診療～ 水 ゆうゆうタイム～ 土		夜間外出は、第1金曜日 6:30～7:30
14:00	（第2・4） 音楽クラブ～ 土（第1・3）	月・金曜日 介助者入浴 水曜日 一般入浴 13:30～15:00	スタッフの付添い外出は、各ユニットで計画、適時実施。
15:00	作業・ハンドメイド終了		毎月・隔月の行事は適時実施。
16:00	ウォーキングタイム （月～土）		
16:30	うがい		
17:30	夕食（2階の後、1階、3階対応）		居宅生活訓練事業の対象者は、夕食後にアパートへ戻る。 （夕食を提供する場合）
	自由時間 ↓		
20:30			
23:00	消灯・就寝（特に時間は定めない。）		

#### 4. 諸活動（クラブ等）のまとめ

活動（クラブ）名	生産活動	参加人数	約40名
実施日	毎週 月、水、木、金、土曜日		
目標	生産活動に参加することで、積極性、協調性の向上を図る。又、楽しい雰囲気づくりに努め、活動のやり甲斐と就労に繋がることを目標とする。		
実施経過	月、水、木、金、土 . . . 9:15 ~ 11:00 月、水 . . . 13:15 ~ 15:00 <b>【作業の内容】</b> フックボルト . . . ボルトにワッシャーとスポンジとナットを組み立て、箱詰、梱包 紙 袋 . . . 紙袋に底板やを通す組み立て作業と結束 行事カード . . . 食事に添える年中行事カード・お祝いカードの製作 食品カップ . . . 食品カップの検品・袋入れ作業		
評価	生産活動の場を3か所設定、利用者の能力や特性に応じて実施。感染予防のため、座席間隔設定・換気・消毒・マスク使用を徹底し、安全に配慮した。受注量・収入は、昨年度と比べて横ばい、行事カード作業の受注量は昨年同様多くはなかった。各業者と連携を図りながら受注量の確保に努めた。利用者のモチベーションを高める為、個々の生産活動に対する評価を行い、生産評価表を基準に支給。生産評価表は、定期的に見直しを行った。		
活動（クラブ）名	ガーデニングクラブ	参加人数	約10名
実施日	毎月1回（日曜日）		
目標	施設内の緑化に努め、季節を感じられるガーデニングを行う。ガーデニングクラブを通して、仲間作りの場所としても活用していく。利用者の主体的な参加を促すため、活動内容について利用者相互での話し合いの機会を持つことに加え、水やりの当番を担ってもらう。		
実施経過	4月：ミーティング（5月に植える花を選ぶ。水やり当番を決め、そのルールを確認する。） 5月：春の花の苗を植える。 6月：ミーティング（7月に植える花を選ぶ。） 7月：中止 コロナ感染拡大予防のため、購入していた花を職員だけで植える 8月：休み 9月：ミーティング（10月に植える花（球根）を選ぶ。） 10月：球根を植える。 11月：ミーティング（12月に植える花を選ぶ。） 12月：中止 コロナ感染拡大予防のため、購入していた花を職員だけで植える 1月：休み 2月：休み 3月：ミーティング（クラブ活動への感想や希望を聴取）		
評価	ガーデニングクラブの活動の基本として、植えたい花を利用者自身に選んでもらうミーティングを開催し、その翌月に花の苗を植えるという形をとった。ミーティングにおいては、積極的な参加を促すため、役割を分担し、特定の利用者がよく担ってくれた。また、利用者が植物に関する知識を教えてくれたり、プランターに土・石を入れる・土をならす手伝いをしてくれたり、積極的に花の苗を植えたりと取り組んでくれた。水やりについても、前年度と同様に当番制を採用し、きっちりと当番を果たしてくれた。クラブ活動を通して少しでも利用者にやりがいを感じてもらえる1年であったと思われる。		

活動(クラブ)名	カラオケクラブ	参加人数	約20名
実施日	第1、3土曜日(原則) 午後1:30頃より約60分		
目標	楽しく音楽に親しみ、日々の活力にする。		
実施経過	<p>○セッション 回数:14回 方法:歌唱、身体運動、音楽鑑賞等 形態:個別カラオケ</p> <p>○1年間の活動を振り返る会 ○担当職員による総括会議</p>		
評価	<p>例年通り、参加メンバーを固定するのではなく希望者に参加して頂く形で開催。全セッションの参加者数は平均して20名であるが、セッションによって変動があった。</p> <p>今年度より、音楽クラブよりカラオケクラブへ名称が変更され、個別カラオケがメインとなった。利用者の歌唱参加が増えたため、体操・個別カラオケのみというシンプルなプログラムになった。身体運動については高齢者も多いため、座って行うものになった。同様に前回好評であった紅白歌合戦を年始に行い、勝敗を競った。</p> <p>活動を振り返る会では、「2コーラス歌いたい」「セッション曲を歌いたい」「紅白歌合戦のようなイベントを増やして欲しい」などの意見が聞かれた。今年度は月1回行っていたカラオケと、音楽クラブが合併した初めての年であった。その為、それぞれに参加していた利用者の希望要望の方向性が違い、お互いに物足りなく感じた年であったかもしれない。利用者からのフィードバックを受け、次年度も参加利用者の希望に沿った活動を計画していく。</p>		
活動(クラブ)名	いきいきサークル	参加人数	約20名
実施日	毎月1回(第2日曜日)		
目標	健康維持のため、運動不足を解消し、施設生活の充実を目指す。		
実施経過	<p>コロナが5類になったため、フローラの外での歩行運動を主とした。</p> <p>永瀬川や神社やお寺など楽しめるスポットへのウォーキングを実施し気分転換も兼ねた。</p>		
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月はふれあい祭りが行われたため、ウォーキングを兼ねて色々な店舗を歩いて回った。</li> <li>・長瀬川までの歩行距離は利用者にとって丁度良い距離であるため、何度か川までの歩行を行った。また亀や鯉やサギなどを見る事が出来るため、楽しめたと思われる。</li> <li>・お正月には、何箇所かの神社や寺まで歩いて行き、お参りも行った。</li> <li>・7月にはアイスクリームの提供、最終回の3月は茶話会を実施し、次年度も運動を頑張って取り組んで頂けるよう声掛けを行った。</li> </ul>		

## 5. 各種委員会のまとめ

### ・人権擁護対策委員会

#### 目 標

「フローラ 利用者の権利要項」を根拠にして、フローラ利用者個人の尊厳・人格を尊重して支援に当たり、もって利用者の人権擁護が推進されるよう活動する。人権侵害に関わる支援・ケースについては、委員会はその口頭説明や記録を精査し、その妥当性、正当性、問題点の有無を検証し、問題ある場合は今後の対応を施設長に具申する。利用者の権利擁護システムを構築する。人権擁護について、利用者や職員に啓発し意識の向上を図る。

#### 活動内容

- ・人権擁護対策委員会・実施(臨時開催)
- ・行動制限「フローチャート」の活用、更新の確認(通年・全委員)
- ・人権インシデントシート「イラッとシート」の積極的な活用、早期確認・検討・対応(通年・全委員)
- ・「虐待防止セルフチェックリスト」の実施(9月)

#### 反省と評価

- ・計1回の委員会開催。
- ・輪番研修は未実施。人権委員だけではなく施設全体で人権意識を高める機会を作る必要がある。
- ・計2回「フローチャート」活用・説明書作成  
利用者の人権に配慮し、行動制限が妥当かどうか、また早期に行動制限が解除できるように中間に1度ユニットで検討を行った。
- ・「イラッとシート」提出に気づかずに対応が遅れることがないよう出来るだけ月1回の提出有無を確認(提出用封筒と提出用フォルダの両方)を実施した。今年度は未提出なし。ここ数年提出がない現状であり必要性、運用方法を要検討である。
- ・「虐待防止セルフチェックリスト」全体実施・集計・分析は16年連続で実施。
- ・全委員が主体的に前向きに活動参加し、対策に取り組んだ。

### ・第三者評価対策委員会

#### 目 標

前回受審時に上がった課題について、改善計画を作成し改善に取り組み、サービスの質の向上を目指して施設全体で取り組む。

#### 活動内容

受審時に指摘を受けた点について改善計画を作成し、改善に取り組んだ。  
また、次回受審に向け、自己評価を実施しながら資料の作成・収集等の準備を行った。

#### 反省と評価

第三者評価の改善計画については、改善途中の項目が5項目残っている現状であり、引き続き、全項目クリアを目標に取り組んでいく。業務マニュアルについては、昨年の委員会の活動を集約、更新を実施し、スリム化を行った。自己評価については、評価に変わりなし。来年度は、第三者評価を受審予定であり、受審に向けた取り組みを行っていく。

## セーフティマネジメント委員会

### 目 標

事故の回避と再発予防

### 活動内容

ヒヤリ・ハットレポートの評価を活用し、日常生活における事故の回避と再発予防のために検討を行った。  
 (例) 転倒転落、無断離院、暴力興奮、誤薬、誤嚥などの予防について  
 ヒヤリ・ハットレポートの評価は毎月月上旬に前月の評価を委員で検討し、  
 職員会議で内容と件数の報告を行い、重大な事故に関しては皆で検討を行った。また重大な事故について経過観察期間を設け評価を行って貰った。

### 反省と評

年間を通しての件数は、転倒・転落55件、無断離院11件、暴力興奮8件、与薬5件、誤飲誤嚥8件、誤薬6件、その他8件、未然防止6件であった。

前年と比較すると、無断離院21件→11件に減少

転倒転落47件→55件とやや増加与薬1件→5件、誤薬2件→6件、その他3件→8件と増加みられた。件数が増えた事故について回避・再発予防できるよう努めていきたい。

### インシデント・アクシデントレポート件数 (令和6年度)

内容	転倒・転落	無断離院	暴力・興奮	与薬	誤飲・誤嚥	誤薬	熱傷	紛失・破損	その他	未然防止	計
件数	55	11	8	5	8	6	0	0	8	6	107
全件数	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107
比率(%)	51.4	10.3	7.5	4.7	7.5	5.6	0.0	0.0	7.5	5.6	100

## ・ユニット調整委員会

### 目 標

各コミュニティの特色(機能・能力分類)を生かしたケアの展開と支援。  
 サービス内容の充実を図るため必要に応じてメンテナンスを行う。

### 活動計画

4月～6月 支援内容、方針検討及びメンテナンス  
 7月～1月 援助実施メンテナンス  
 2月～3月 支援終了メンテナンス

### 活動内容

生活機能別、支援目標別に形成した5ユニット(各ユニットをピンクコミュニティ、オレンジコミュニティ、パープルコミュニティ、イエローコミュニティ、グリーンコミュニティとする)がそれぞれ円滑に業務遂行できるよう連絡調整を図るため必要に応じて会合を開いた。

各コミュニティには、それぞれに特色を持たせて、サービスの向上を図った。

### 反省と評価

他部署連携を重視、各ユニットで抱える課題や問題解決に力点を置く。

新入所の動きに合わせて、女性部屋のひとつを男性部屋に変更する。

今後も必要に応じて対応予定。

また、職員の入職が続き、新入職員の数が多くなってきているため、教育面においても各コミュニティ間で連携していきたい。

・家族・地域・ボランティア活動推進委員会

目 標

家族・地域・ボランティア活動との関わりをふまえ、推進活動を検討していく。

活動内容

- ・ボランティア募集・地域行事参加
  - ⇒ 東大阪市社会福祉協議会ボランティア体験への募集実施。応募なし。
  - ⇒ 長瀬キリスト教会慰問 ……6/16花の日慰問あり。
  - ……………クリスマス慰問は施設内新型コロナウイルス感染拡大のため中止
- ・家族への施設行事連絡 ⇒ 事務より通知
- ・公徳学園ボランティア ⇒ 今年度実施なし

反省と評価

今年度は感染症対策を行いながら、家族・地域活動・ボランティア活動を行った。今後、感染対策が緩和されるため、ボランティア活動の充実を図っていきたい。

・施設内研修チーム

目 標

業務に関する知識・技術を習得し、交流・親睦を図る。雇用情勢を踏まえた人材育成・組織開発を目指す。

活動内容

- ・新入職員OJT（9名対象）
- ・新入職員フォローアップミーティング（計8名実施）

反省と評価

今年度は新人職員のOJT、フォローアップを実施した。  
 ケアワーカー9名が新入職員研修に参加した。  
 全利用者の支援に関与、チームケアの一翼を担うことを目標とした。  
 フォローアップは主任同席のミーティング形式で実施した。  
 新入職員の戸惑い・不安に寄り添うことを主眼にミーティングを重ねた。  
 必要場合は研修課題や関係を調整し、研修環境の改善に努めた。  
 対象職員全員が3ヶ月以内に研修目標を達成した。  
 今後は業務追加や配置転換に伴う研修が求められる。

令和6年度 参加した施設外研修一覧	
日時	研修会名
6月28日	R6.第三者評価研修会
7月13日	★CVPPP研修(暴力的な利用者に対する対応について)
7/18~7/19	R6年度近畿救護施設研究協議会 大阪大会
8月28日	★自己理解他者理解研修 レベルII研修
9月5日	R6年度 個別支援計画研修会
10月2日	R6年度近畿救護施設協議会「地域生活移行支援研修会」
10/17~10/18	第46回全国救護施設研究協議会大会
11月14日	人権擁護・虐待防止研修会
11月15日	コミュニティソーシャルワーカー養成研修会
12月11日	★意識改革研修 レベルIII研修
12月16日	成人施設部会全体研修会
12/17~12/18	R6.救護施設福祉サービス研修会
12月20日	★アサーション研修
1月16日	★個人情報研修会
1月23日	★医療安全研修(医薬品の取り扱い研修)
3月3日	R6年度 障害者虐待防止マネージャー研修会(録画配信受講)
2月18日	福祉避難所に関するオンライン研修
2月25日	近畿救護施設協議会 精神障がい者支援実践講座
3月6日	発達障害の知識と理解専門職員研修会
3月14日	★アンガーマネジメント研修 など
★…当法人の研修会に参加	

## ・個別支援計画推進委員会

### 目 標

「利用者主体の原則に則り、かつ多職種の協働、連携による専門性の高いケアマネジメントの実践を目指す。利用者に対して多様なサービスを効果的に組み合わせ提供し、継続的で一貫性のあるニーズ充足が図れるよう当施設での援助サービス体制の構築を図る。」具体的には全国救護施設協議会で策定された救護施設個別支援計画書の活用の推進を図る。

### 活動内容

- ・救護施設個別支援計画書を活用。作成はPCソフト「福祉見聞録」を活用。居宅生活訓練利用者、通所利用者は地域生活移行用計画書を活用した。
- ・毎週火曜日を個別支援活動として計画立案や支援の実施に取り組んだ。
- ・個別支援計画事業計画暫定のフローチャートに基づき立案。作成された個別支援計画を施設長、役職、リーダーが検討する個別支援計画策定会合を実施した。
- ・今年度より福祉事務所と情報共有・連携強化のため、個別支援計画作成の制度化が進められる。今後の対応を検討。

### 反省と評価

- ・昨年度はコロナウイルス感染対策が考慮された計画書となっていたが、今年度はコロナ禍前のような外出を伴った支援や行事参加の支援計画が実施されていた。
- ・会合自体がなかなか実施できず、出来ても短時間となった。
- ・新人職員も増えており、今後個別支援の説明も兼ねて再度全体に周知していく。
- ・「救護施設等における個別支援計画作成の義務化」について、施設長より今後フォローアップでの対応について検討。また今後の運用方法については、実施機関からの依頼内容によって都度検討していく。
- ・今年度は大阪市（業務センター）、吹田市、交野市（提出なし）より提出依頼あり、計画書を提出した。

## ・個人情報保護委員会

### 目 標

個人情報保護に関しての啓発。

### 活動内容

法人の個人情報委員会にて話し合った。天心会での業務の中で判断がつきにくいもの・見直しや検討は必要な事案については確認を行う。

### 反省と評価

随時委員会を開催した。ここ数年でサイバー攻撃による病院システム障害が確認されているので、引き続き、決められたUSBメモリ、デジカメ等の記録媒体以外は使用不可とし、セキュリティ対策を強化した。

・環境美化委員会

目 標

施設内外の美化推進を図る。  
施設備品(清掃関係)の補充。

活動内容

環境美化週間(6/2~6/8)・夏季大掃除(7/11)・年末大掃除(12/7)時に施設内の清掃を実施。  
定期的にゴミ置き場の清掃(排気口、消臭剤の設置等)・消耗品の補充を行う(各コミュニティで対応)

反省と評価

ゴミ置き場は清掃・整備に努め、清潔を保持した。  
施設内各部署で協力しながら環境美化に努めた。

・タバコ・アルコール問題対策(各コミュニティで対応)

各コミュニティに対策を移行し、令和3年度より委員会は発展的に解消した。

目 標

- <アルコール>  
アルコール依存症と向き合い病識を持ってもらう。
- <タバコ>  
敷地内外の喫煙マナーを啓発する。

活動内容

- <アルコール>  
東大阪市アルコール関連問題会議と連携し、地域や福祉とのセーフティーネット構築に努める。
- <タバコ>  
敷地内外の喫煙マナー向上の啓発する。

反省と評価

- <アルコール>  
ひがし布施クリニックに2名の利用者が通院を継続。  
東大阪市アルコール関連会議に関しては、業務終了後の自主参加となる為、働き方改革に準じて参加を見合せている。ただ、今後も必要に応じて断酒会や専門医療機関、行政、その他関係機関とのネットワークの構築は継続していく。
- <タバコ>  
敷地内は禁煙。タバコとライターは施設で管理。喫煙者に外出時のマナー向上、啓発を各コミュニティ単位で行ってきた。

・業務マニュアル メンテナンス委員会

利用者に対して、より質の高い安定的なサービスの提供を図るため、現行業務マニュアルの改善、メンテナンスに取り組む。

マニュアルに変更が生じれば、日付を記入し、旧マニュアルと差し替え、最新のマニュアルをファイリングしていく。

下記の業務マニュアルグループにより、業務マニュアルのメンテナンスを行った。

- ・ 援助マニュアルグループ
- ・ 記録マニュアルグループ
- ・ 接遇マニュアルグループ
- ・ 業務当番マニュアルグループ
- ・ 家族・地域との関わりマニュアルグループ
- ・ 事務処理マニュアルグループ
- ・ 非常時・災害時等緊急対策マニュアルグループ

## 6. 苦情解決事業

救護施設フローラにおいて実施する福祉サービスの対象である利用者の権利を擁護し、利用者が福祉サービスを適正に利用できるよう、利用者の苦情や相談を受け入れるとともに、社会性、客観性の観点からその苦情の解決や相談にあたり、もって施設の社会的使命を果たし、事業体としての信頼を確保することを目的とし、苦情解決事業を実施した。

「フローラ 利用者の権利要項」に基づき、ノーマライゼーションの理念に則って利用者の権利に関し普及、啓発に努めた。

「相談窓口」及び「意見箱」をそれぞれ継続設置、隔週1回（日曜日）には利用者からの苦情を受け付け、適切に対応するよう心がけた。

受け付けた苦情については、その場で解決を図れるものを除き、各ユニットへ伝達し改善に努めた。

苦情が発生した時点で、苦情受付担当者が、苦情解決責任者へ報告、当事者及び苦情発生に至るまでの経緯等、事実確認を行い、迅速かつ、確実な苦情処理を心がけた。

意見箱に寄せられた意見については、月末時利用者代表者とスタッフとで開封し内容を確認、苦情発生の際は翌月の誕生懇談会で公表している。

今年度の苦情件数は0件であった。

令和6年度 フローラ苦情解決事業の内容				
・苦情の分類				
1 福祉サービス	0	0	0	0
2 利用料	0	0	0	0
3 安全	0	0	0	0
4 その他	0	0	0	0
合計	0	0	0	0
・相談・要望の分類				
① 生活支援	15	13	2	0
② 職員の対応	0	0	0	0
③ 居住環境	4	3	1	0
④ 利用者間の関係	3	3	0	0
⑤ 制度に関するもの	3	3	0	0
⑥ その他	1	1	0	0
合計	26	23	3	0

※支援継続3件…通院に関すること。金銭管理に関すること。居住に関すること。

## 7. 居宅生活訓練事業

地域に事業用住居を3部屋確保し、対象人数は3名、原則1年の利用とした（更に1年の利用延長可能）。個別支援計画を活用し、利用者が円滑に地域生活へ移行できるよう支援することを目標とした。

適時、訓練居宅の訪問を行う。金銭管理、服薬管理、食事管理、衛生管理などの日常生活支援や通院管理、買い物、公共交通機関の利用、対人関係の構築、就労などの社会生活支援を実施した。また、日中活動、余暇活動については、当施設の日課や行事への参加を基本とした。

関係諸機関との連携を図り、今年度は、4・7月に計2名の利用者が地域生活へ移行することができた。地域生活が継続されるよう、通所事業の展開とも連携する。また、地域生活へ移行された利用者に対して、希望者にはフローラの昼食を提供した。

## 8. 保護施設通所事業

フローラの退所者または居宅の被保護者、居宅の被保護者以外の方のうち、生活指導・支援が必要と認められる方を対象とする。登録者各々のニーズを把握し個別支援計画に基づき支援する。具体的には、フローラに通所していただき指導訓練を行う。また、職員が居宅等へ訪問し、生活指導を行う事により、居宅で継続して、生き生きした本人らしい地域生活を送れる事が目標である。

通所訓練（定員3名）として、①施設内各種生産活動の参加。②日中活動として施設の行事参加、趣味余暇支援。③昼食の提供で栄養管理支援。④生活相談。

訪問指導（定員6名）として、居宅の訪問を行い、居宅整備、金銭、服薬、福祉サービス利用等の生活支援を行う。個別に訪問し、個々の生活ニーズに沿って支援する。

居宅生活訓練事業とも連携を図り、退所者や地域生活者の支援を行った。1人暮らしの不安を軽減し本人らしい地域生活を送られることに貢献した。

年間通して計6名が利用され、毎月通所訓練2～4名、訪問指導3～5名が利用された。今後も支援内容の強化、関係機関との連携を密に、より自立的な地域生活支援が目標である。

## 9. DV被害者一時保護委託事業

大阪府からの業務委託を受け、配偶者からの暴力被害者などの受け入れ・支援を行う。業務内容は、①身体的・精神的に暴力を受けてきた被害者の受け入れ②安全で衛生・プライバシーに配慮された生活空間の提供③入所者に対する食事又は食材の提供④入所者に対する入浴及び被服の提供⑤相談及び情報の提供⑥行政機関の訪問等のための入所者の移送⑦夜間を含め、入所者と速やかに連絡を取ること⑧関係機関との所要の連絡⑨保護記録及び報告書類等の作成⑩災害時の避難誘導である。

大阪府女性相談センターと連携を図り、配偶者からの暴力被害者などを受け入れられるよう、その際はできるだけ不安を軽減し、穏やかに地域生活へ戻れるような支援を準備。

今年度は利用がなかったが、今後も依頼があった場合は速やかに支援体制を築き、関係機関と連携を図りながら新たな地域生活支援展開を目指す。

### Ⅲ 事業実施のまとめ

## 援助実施のまとめ

### 特別目標

「職員間のコミュニケーションを高め、利用者主体の支援を実践しよう」

概要…地域生活への移行支援を強化し、退所者が増えたため、施設入所者の年間稼働率は、91.3%（1日当たり82.2人）と目標には届かなかったが、年間のベッド回転率は27.8%と高く、循環型のセーフティネットとして、社会のニーズに応えた。

#### 1. 各種支援の展開

##### （1）地域生活移行支援

保護施設通所事業、居宅生活訓練事業、一時入所などを効率的に運営し実効性を高めた。また生産活動や就労支援を積極的に行ない、地域生活移行支援の向上、継続化を図った。通所事業利用定員に対する利用率は65.6%（1日当たり5.9人）。

##### （2）個別支援の充実

個別支援計画により利用者のやりがいや生きがいにつながるニーズを把握し、生活モデルへの転換を図る。また、福祉事務所との連携を強化し、個々に合った実効性の高い具体的な支援計画の立案と実践を図った。個別支援のための時間枠を設け、計画が確実に実践につながるよう配慮した。

##### （3）利用者の権利擁護活動

利用者権利擁護対策の活動において、利用者主体の支援を具現化するために、対策チームを組織し、日常に潜む不適切な対応や行動制限のルール厳守化や、利用者権利の侵害、虐待にあたる行為に対する防止のための取り組みを行った。

##### （4）重度・高齢化への対応

重度・高齢化する利用者に対しては、生活保護の補足性の原理に基づき、他法施設へのスムーズな移行を促進した。各コミュニティのアウトリーチ支援による諸制度の活用や関係諸機関とのネットワークの構築などにより、その可能性を追求した。

##### （5）機能別コミュニティ（ユニット）ケア

地域生活移行関連事業を加えて5つに分けた生活グループから成るコミュニティ（ユニット）ケアに取り組み、利用者の生活機能に応じた支援を行った。それぞれのコミュニティの利用者に適した支援を実施して、より実効性のあるものになるよう取り組んだ。

##### （6）専門的支援

社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、看護師、管理栄養士など、専門知識を有する職員を配置して、福祉事務所、精神科病院、保健所、他法施設等との連携を強化した。

##### （7）家族や地域、ボランティアとの連携

家族、地域、ボランティア等との関係を強化して、利用者の社会参加の機会を増やすことに努めた。

##### （8）個人情報保護

職員の特定期間情報の管理については令和元年度より社会保険労務士事務所へ委託している。その他種々の情報については法人内個人情報管理委員会の主導により、利用者、退所者及び職員などに関する個人情報の取り扱いに留意した。

#### （ 9 ） 第三者評価による業務改善

施設の内部牽制や意思決定プロセス、利用者本意の支援サービスなどの業務改善を図るため、第三者評価の受審プロセスを重視。受審結果から改善点が明確化されたことにより、第三者評価対策チームの活動を核に、関連部署と連携しながらその改善について精力的に取り組んだ。

#### （ 10 ） セーフティマネジメントの取り組み

施設にセーフティマネジメントチームを置き、事故の未然防止や再発防止に組織的に努め、分析を積極的に行い、具体的な対策を講じた。

#### （ 11 ） 給食サービス

①選択メニュー（週1回）、適温適時給食、名物料理の開発、行事食による季節感のある食事提供を行った。

②カロリーを表記した献立を掲示し、利用者の食と健康に対する関心度を高めた。

③給食懇談会を定期的、継続的に行い、委託契約会社との連絡調整を図り、また利用者代表にも出席してもらい、利用者の声が反映しやすくなるよう努めた。

④嗜好調査を年間複数回実施し、食事に対する利用者のニーズの把握に努めた。

⑤家族会において給食（昼食）試食の機会を設けた。6月の家族会では多数のご家族が参加され、給食について貴重な意見をたまわり給食委託業者とも連携を取りながらサービス改善に努めた。

#### （ 12 ） 行事

年間行事計画は、利用者のニーズ、障害の程度、年齢などを考慮した企画を用意し、日常生活に生きがいや潤いを持たせるため、施設内外で行事を実施した。

#### （ 13 ） 日中活動

①アクティビティ・プログラム（ゆうゆうタイム）

月1回以上定期的に行い、利用者のニーズを汲み取った日中活動を実施し、有意義な時間を提供した。

②カラオケクラブ

カラオケや音楽を楽しみたい利用者が多いのを受け、月2回程度行い、利用者の残存機能の開発や機能維持を図った。

③ガーデニングクラブ

月1回行い、利用者に土にふれ植物を育てることの喜びを感じ、生活に潤いや楽しみを持ってもらえるような活動を行った。

④クッキングクラブ

活動する場所の課題があり、今年度も休止した。

#### （ 14 ） 生産活動

- ①複数種類の生産活動や洗濯業務の体験等を通じて、社会参加の喜びと社会復帰への意欲向上を図った。
- ②居宅生活訓練事業や通所事業の利用者、施設退所者などを対象に、創作活動を行い、居場所づくりを提供するとともに、社会参加の喜びを通して、就労の足がかりとした。

#### (15) 健康管理

- ①高齢化・障害の重度化に対応して、定期健康診断・血圧測定等を実施した。
- ②害虫駆除・施設内消毒等を実施し、衛生管理に努めた。
- ③新型コロナ、インフルエンザ、ノロなど、感染情報に留意し、施設内感染や食中毒等の予防に努めた。
- ④疾病については、早期発見、早期受診を徹底した。
- ⑤日常生活に歩行運動を取り入れ、利用者の体力低下の防止を図った。
- ⑥糖尿病を抱える利用者を対象にカロリーの摂取や消費について意識を高めるとともに、予防にも配慮して非糖尿病利用者にも対象を広げて体操や歩行運動などの活動を行った。

#### (16) 地域との交流

- ①敬老会や文化祭、市民ふれあい祭りなど、地域の行事には積極的に参加、同時に施設行事などへの招待や日常生活へのボランティアの受け入れを活発に行い、地域との交流を促進した。
- ②施設機能を積極的に地域に提供。特に、福祉避難所として東大阪市と協定を締結しており、非常食や飲料水などを用意した。フローラホールはデイケアのプログラムや地域の各種団体の研修会場としても提供し活用を図った。

#### (17) 苦情解決事業

- ①1F情報提供室を開放し、利用者への情報提供を進めるとともに、施設への様々な意見や質問等を求める機会を確保した。
- ②意見箱の設置、相談窓口（隔週）等を通して、公平性や公表を担保しながら、利用者の苦情、要望、質問、意見などの声を受け容れ、利用者自治会と連携しながら、問題の解決に努めた。相談・要望などに対応し、苦情に該当する案件はなかった。
- ③利用者自治会（月1回程度）とともに、利用者自らが利用者同士の苦情や意見の把握に努められるよう支援した。

#### (18) 利用者と施設管理者との意見交換

- ①毎月ごと、年末ごとに開催する懇談会を通して、利用者の様々な意見や情報を得る機会を確保した。
- ②利用者や家族が当該施設や地域の情報を知ることができるよう情報提供室を開放し、資料の充実と閲覧場所の提供に配慮した。

#### (19) 禁煙、禁酒活動

- ①敷地内禁煙を徹底し、タバコの有害性を説き、可能な限り禁煙を勧め、喫煙者に対して地域でのマナーについて指導した。
- ②アルコール依存、あるいはアルコールが原因による疾病等に配慮して、アルコール外来受診を義

務付けた。対象者は施設内外での禁酒を徹底する一方、施設におけるアメニティの向上、ストレス軽減を図り、その飲酒の抑制につなげた。

#### (20) 夜間外出の機会確保

利用者による事前の届け出により対応。施設として月1回は夜間外出の日を設けてその機会を確保した。

### 2. 施設の改善

①建物管理の業務委託を継続しつつ、当施設においても環境美化チームを置いて、施設内外の美化の維持と、建物および設備の老朽防止対策を図った。

②設備、備品の取り扱いを熟知するよう努め、設備上の故障や損失に対して利用者に影響を及ぼさないよう設備管理委託契約会社との連携を密にし、迅速な対応を心掛けた。

『実施した改善…AEDやプロジェクターの更新、ろ過機ポンプや空調設備の修繕など』

### 3. 災害対策

①火災や地震などの大災害を想定して、毎日の朝礼において防災組織を編成し、その体制について確認を励行した。

②昼間或いは夜間の避難訓練を年に3回実施し、1回は消防署の立会いの指導を受けて総合的消防訓練を行い、利用者や職員の防災知識の向上と防災体制の周知徹底を図った。

③消火器や消防署とのホットライン、消火栓など、職員全員が防災設備の使い方が把握できるよう努めた。

④被害を最小に止めることが出来るよう、コミュニティ（ユニット）別、居室別避難訓練を随時行う。小阪病院および防災センターと連携し、敷地内の防災に努めた。

⑤敷地内は禁煙。炎探知機を共有部分敷設所に設置、喫煙行為の抑制を図った。

⑥火災だけでなく、水害や地震等にも対処するための非常災害対策計画を策定し、その周知徹底を図った。

⑦非常時の職員の安否確認システムを活用し、非常時の迅速な対応と事業の継続計画（BCP）の策定・見直しを行い、実効性を高めた。

### 4. 施設の運営管理

#### (1) 会議

月1回の職員会議、ケアサービス会議、運営会議、毎日の朝礼などを通じて、職員相互の意思の疎通と情報の共有化を図った。

#### (2) 退職金制度と福利厚生

福祉医療機構退職共済事業、および大阪民間社会福祉施設従事者共済会退職金給付事業に加入し、退職金制度の運用と職員の福利厚生を充実させた。また法人共済会活動に参画し、法人内の福利厚生を充実させた。

#### (3) 研修

①職員の確保と育成の観点から、スーパービジョンによる新入職員研修や、経験や課題に応じた施

設主体の研修会を毎月行った。

②外部の研修会や講習会、セミナー、法人内教育委員会による研修などに積極的に参加して、職員の意欲と資質向上を図った。

③新入職員フォローアップ研修や月次研修等の施設内研修を、職員全体で行う機会を通して職員の育成を図るとともに、施設が抱える課題について積極的に取り組んだ。

『実施した施設内研修…排便に有効な運動、口腔ケア、食中毒予防、事例検討、救命 AED の使用法、防災 B C P と自家発電機、感染予防と嘔吐物処理、記録の書き方、防犯、研修の報告など。』

『参加した施設外研修…近畿及び全国救護施設研究協議大会、地域生活移行支援研修、第三者評価研修、個別支援計画研修、人権擁護・虐待防止研修、精神障がい者支援実践講座、救護施設福祉サービス研修会、障害者虐待防止マネージャー研修、コミュニティソーシャルワーカー研修会など』

#### （４）意見交換と事業計画への反映

夏期、冬期に施設長と職員で面談を行い、1月に検討会を行い、今後の施設運営や次年度の事業計画に反映させた。

#### （５）実習生、ボランティアの受け入れ

①福祉関係の教育機関から実習生を積極的に受け入れ、人材育成に寄与するとともに、職員と実習生との関りの中から職員のスキルアップと活性化を図った。

『実習を受け入れた学校…東大阪准看護学院、大阪保健福祉専門学校、鴻池生活科学専門学校』

②東大阪市社会福祉協議会を通じて体験ボランティアプログラムの活用を図ったが、申込がなかった。

#### （６）広報活動（情報公開、情報提供）

①ホームページに情報の公開を行い、施設の認知度や理解度を高めると同時に、法人内共有システムを活用して情報の共有化を図り、その利便性を高めた。

②人材の確保は切迫的課題であり、より求職者の視点に立った求人活動を展開するため、施設 P R チームの活動を促進し、求人広告、SNS 等による情報発信、就職フェアへの参画、社協や企業等と連携して、有益な求人活動を推進した。

#### （７）人事考課制度とキャリアパス

職員のインセンティブにつながるよう目標管理システムと人事考課制度を確実、適正に行った。スキルアップやキャリアアップの具体的な内容を示し、目標をもって仕事に臨める、働き甲斐のある環境づくりを進めた。

### 5. 生活困窮者自立支援

地域の公益に資するため、第2種社会福祉事業である生計困難者自立相談支援事業に当施設がその受け皿として主体的に関与し、主に認定就労訓練事業、就労準備支援事業、一時生活支援事業に取り組んだ。

### 6. 地域公益活動への取り組み

（１）地域の公益に資する活動を主体的に行った。

災害や新型コロナウイルスをはじめとする感染拡大など、地域にも大きな影響が想定される社会的課題について、地域への情報提供や共有、課題解決のための協議、連携等を働きかけた。

(2) 消火訓練や救命講習等は、施設職員のみならず、地域参加の呼びかけを行った。

(3) 生活困窮者等の支払い困難な者に対する無料低額な福祉サービスを提供した。

(4) 施設周辺地域の清掃活動、施設の花壇、フローラホール等の地域への無償開放を行った。

(5) 福祉避難所、非常食など非常時の地域への施設機能の提供に備えた。